

ターミナルケアの在り方探る

第6回日常診療経験交流会に241人

協会は、大阪府保険医協会・大阪府保険医協同組合と共催で、「第6回日常診療経験交流会」を6月23日、M&Dホールと保険医会館で開いた。メインテーマは「ささやえよう患者と家族 考えようターミナルケア」おたやかな最期を迎えてもらうために」。歯科・医科会員やスタッフら241人の参加者は、分科会やシンポジウムを通じて終末期医療の在り方や取り組みなどを交流した。



会場いっぱい参加者が集まった小山明子さんの記念講演＝6月23日、M&Dホール

開会にあたって小澤力理事長は、「テーマとなっているターミナルケアは、政府・厚労省の医療費・介護費削減ありきの姿勢ではなく、患者・家族、現場の医療関係者の皆さんの視点から、そして人としての在り方の観点から考えたいと思います。活発な意見交換をお願いします」と挨拶した。午前中は、「院内システムなどの工夫」「臨床上の工夫と報告」「地域での問題や工夫」の三つの分科会に分かれ、会員らが25演題を発表した。歯科からは7演題の発表

があった。昼休憩時に開いたランチョンセミナーでは、「微小粒子状物質(PM2.5)による大気汚染とその健康影響」と題して島正之氏(兵庫医科大学公衆衛生学教授)が講演し、PM2.5は、健康な人はそれほど心配

する必要はないが、呼吸器や心臓に疾患がある人や子どもは影響を受けやすい」などと述べ、注意を促した。記念講演では、女優で故・大島渚映画監督の妻の小山明子さんが講演。うつ病に悩まされながらも、17年間にわたって大

島監督を介護した経験を語った。シンポジウムでは、歯科医師の吉田春陽氏(守口市)や医師・看護師・介護福祉士の4人がそれぞれの立場から終末期医療や看取りの在り方について報告した。

終末期医療めぐり

医師・歯科医師らがシンポ

「ささやえよう患者と家族、考えようターミナルケア」おたやかな最期を迎えてもらうために」をテーマに開いたシンポジウムでは、最初に医師の立場から今村育男氏(摂津市・千里丘協立診療所所長)が発言した。現在の終末期医療の問題点と

に長期間を要したが、初期から歯科医療が関わっていたら、このような状態を防げたと話した。看護師の立場から報告した新田美和子氏(吹田市医師会訪問看護ステーション)は、多くの高齢者は死に場所として「住み慣れた家」を希望することを紹介。ターミナルケアを実践するためには医師・看護師・専門多職種が連携し、本人・家族が支え、対応すること

とを強調した。一般の人にも聴いてもらい、食育を広げてもらえば予防医学としても素晴らしいと感じた。

「歯医者さんに助けられた」

妻・小山明子さんが語る 大島渚監督との介護生活



大島監督が滞在先のイギリスで倒れたのは1996年。小山さんは仕事ですぐに駆けつけられな

い。機械で生かしたくない」と延命を断った。「穏やかな最期を迎えることができました」と言う。終末期の在り方について、大島監督の看取りに前後して、再び女優として生活を通して、「自分自身も成長でき、良い生き方ができました。これからは、自分のために、人に役に立つ生き方をしたい」と決意を語った。

最後に、介護福祉士の立場から福岡二郎氏(高槻市・小規模多機能ホーム「ゆくらり」)は、ホームでの看取りのきっかけ、看取りを繰り返すなかで気付かされた介護職の役割の重要性を語った。死について考え、話し合い、「一期一会」を繰り返しながら終末期を支えられればと話し、シンポジウムを終えた。

や岡山大学が共同で研究する。特徴は、血中のIGG定量や口鼻測定器など定量的な数値で歯周病の改善判断を行うところにあると説明した。西川真二氏(東大阪市)はスリープスプリントについて、モリタのNKコネクタIIを使用した作成手順やラフルへの対処方法などの勘所を講演した。簡易な方法で作成、調整できること

とを強調した。一般の人にも聴いてもらい、食育を広げてもらえば予防医学としても素晴らしいと感じた。

今年1月に夫・大島渚監督を看取った女優の小山明子さんは、「今日一日幸せだった」と思っ

てほしいが、「生きていく場所を求めてさまよった」と話し、17年間にわたる介護生活について語った。

病状が悪化するなかで、延命処置をするかどうかで悩んだが、「最期は人間らしくあってほしい」と決意を語った。

ここでアレルギー疾患が改善した患者の事例を紹介しながら、医師・歯科が連携して歯科金属アレルギーの治療に取り組む重要性を指摘した。素晴らしい発表で、医師・歯科の垣根をはずして、治療が出来ればこの分野に新しい光が差し込むことになると思った。

報告。日本の風土に適した食事を摂る



第3分科会

第3分科会では、「金属アレルギー治療に歯科・歯科連携は必要不可欠」をテーマに高永和田氏(生野区、写真)が発表した。歯科金属を除去する



富田裕章氏(浪速区)は、「長寿のための食生活」について報告。日本の風土に適した食事を摂る



富田裕章氏(浪速区)は、「長寿のための食生活」について報告。日本の風土に適した食事を摂る



富田裕章氏(浪速区)は、「長寿のための食生活」について報告。日本の風土に適した食事を摂る